

## 第9 2回千葉県森林審議会概要（令和4年度）

1 日 時 令和4年12月16日（金）午前10時から正午まで

2 場 所 千葉県自治会館9階 大会議室

3 出席者 【審議会委員】※敬称略

青山 定敬、川北 紀子、志賀 和人、高橋 輝昌、橘 隆一、  
田渕 和正、中村 令子、松浦 裕子、武藤 敏雄

【県職員】

農林水産部次長 染井 健夫、森林課長 堀口 正昭、  
副課長兼森林政策室長 佐藤 哲也、副課長 宮川 治郎、

※以下敬称略

村井 和之、出口 博規、千葉 浩克、宇川 裕一、伊藤 等  
鈴木 明、勝本 慶子、小林 真生子、町田 優衣、嶋中 彩、  
西村 千尋、渋谷 大介

4 議 題

(1) 審議事項

ア 千葉北部地域森林計画（案）について（諮問）

(2) 報告事項

ア 森林保全部会の開催状況について

イ 森林環境譲与税の活用状況について

ウ 盛土規制法について

5 議事概要

(1) 答申

千葉北部地域森林計画（案）については妥当である旨の答申を行うことが了承された。

(2) 主な質疑・意見

・森林簿の見直しについて、衛星画像を活用したとのことだが、スギ、ヒノキの判定をどのように行ったのか。

【事務局回答】

樹種の判定については、航空写真をもとに目視により判定している。

・切り捨て間伐を行った場合、伐採した木材は活用されないのか。

【事務局回答】

切り捨て間伐の場合、木材は林内に安定する形で整理する。木材の活用は行わない。

- ・地域性の種苗の積極的な活用についてはどのような考えか。

**【事務局回答】**

災害に強い森づくり事業地等の植栽について広葉樹苗などを使用する際は、地域性種苗の活用に努めたい。なお、林地開発においては、地域に存在する植生を参考に植栽木を選ぶよう指針に定めている。

- ・人工造林の計画を4割増やすとのことだが、苗木生産について、千葉県内でどの程度行う見込みとなっているのか。

**【事務局回答】**

県内の苗木の生産体制は現状、脆弱な部分があるが、新規の生産者も少しずつ出てきている。このほか、県外の大手企業に種子を提供し、千葉県用の苗木を生産してもらう取組も行っている。

また、これまで、主としてスギ・ヒノキの苗木を植えてきたが、今後は広葉樹の苗木等、幅広い種類の苗木により植栽の対応を行っていく。

- ・現在、所属しているNPO法人で千葉県用の苗木1万5千本の苗木を生産する予定であるが、現状の苗木の販売価格が低いため、これ以上の規模拡大が可能かという点、難しい部分もある。もう少し価格が上がれば、生産する事業者も増えると思う。

- ・千葉県においては、木材の生産額より、しいたけなどの特用林産物の生産額の方が高い状況にある。こういった特用林産物の生産など、様々な森林利用をすすめることにより、間伐を促進していくことも必要と考える。

- ・静岡県では、材を搬出すると採算の合わない森林について、県の環境税を使って、強度間伐を進めてきた事例があるが、今後、間伐と主伐の間の整備について、どのように地域の実情に即して進めていくかが課題になっている。

千葉県の北部地域では、人工林と広葉樹、竹林などがモザイク状になっている森林が多いため、このような箇所について、どのように整備を進めていくか、検討していくことが必要と考える。

- ・風倒木被害の対応について、現地では、電線付近など、まだまだ危険な木が残っている箇所が見受けられる。こういった箇所の整備をインフラ施設管理者等と協働体制を取っていち早く進めていただきたい。